



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2015.7

No.369

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



DNAバーコーディングで明らかになった事

海老原美夫(さいたま市)

『山階鳥研NEWS』2014年11月1日発行第256号(Vol. 26 No. 6)に、山階鳥類研究所自然誌研究室齋藤武馬さんが発表された「日本産鳥類の固有種が大幅に増えるかも？」と、国立科学博物館の西海功さんが2014年11月8日に開催された(公財)日本野鳥の会平成26年度連携団体全国総会で講演された「DNA解析から見えてきた東アジアの鳥類多様性と分類の今後」などで、いくつかの事実を知ることができました。

●DNAバーコーディングとは

DNAのある領域を解析、バーコード化して、データベース上のすでに知られている種のDNAバーコードと照合することで、種を同定する技術と理解されます。

種の区別というのは、遺伝学的、形態学的、生態学的、生理的違いなど総合的な判断のもとになされるものなので、バーコード化したDNA情報の比較だけで分類をやり直すわけではありません。

また、遺伝的な差が何%あるかと言うのは、種を考える上でのひとつの要素となりますが、これもある数字を種の区別の「基準」とするのではなく、「目安」とすると考えられています。

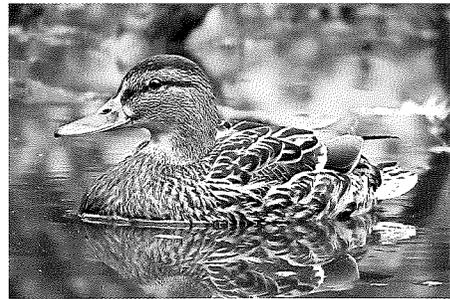
世界中の研究機関が鳥類約1万種の登録を目指しています。日本では国立科学博物館と山階鳥類研究所が共同で事業参加、日本産鳥類約600種の登録を目標としています。今まで、日本国内で繁殖する鳥類251種中234種、93%の登録が完了しました。

●マガモとカルガモの差は0%

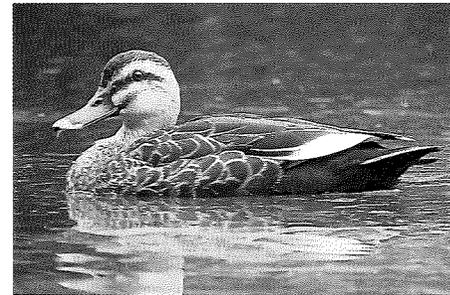
【種間変異】

マガモとカルガモの遺伝的差異は、なんと0%。配列がまったく同じであることが分かりました。見た目や、渡りなどの知られている行動から、両種の違いは明らかと思えるのですが、バーコーディング領域の解析では、両種の区別ができないこととなります。

今回調べているバーコーディング領域は、ミトコンドリアDNAのほんの一部だけなので、たとえその配列が同じでも、遺伝的に全く同じという意味ではありません。だからこ



マガモ♀(上)とカルガモ(下)の顔が、
少し似ているような気がしてきた？



ういうこともあり得るわけです。マガモとカルガモが相当近い関係にあることは、他の研究ですでに明らかになっていると聞きました。その研究内容は詳しく知りませんが、マガモの中で渡りをやめたグループが、時間の経過でカルガモという種になったことも考えられるのではないかと、個人的には妄想を膨らませています。

そのほか、遺伝的差異が小さいものは、アカコッコとアカハラが0.15%
カッコウとツツドリが0.3%
シマセンニュウとウチヤマセンニュウが0.63%
ケイマフリとウミバトが0.85%

コアホウドリとクロアシアホウドリが
1.04%
アカハラとシロハラが1.35%
です。

ああ、これとこれはそんなに近いのか、や
っぱり……なんて、納得できそうな組み合わ
せもあります。

かなり近いのではないかと考えていたハク
セキレイとセグロセキレイは1.51%、ウミウ
とカワウは1.54%でした。思っていたより離
れていたと言うか、やはりかなり近いと言う
か、微妙なところ。いろいろ勝手なことを考
える余地はありそうです。

●隠蔽種の候補が24種もあった

【種内変異】

前記234種に加えて、ユーラシア大陸にも生
息する142種のバーコードを合わせてみたど
ころ、日本列島とその周辺地域で、別種と言
えるほど遺伝的にかけ離れた集団、つまり「同
一の種として扱われてきたが、実際には別種
として分けられるべき生物のグループ=隠蔽
種」の候補をもつ種が24種発見されたとのこ
と。最大遺伝距離が大きい順に、次の通りで
す。

ヒバリ、イワツバメ、アカヒゲ、ヨタカ、
メボソムシクイ、カササギ、カケス、アオジ、
トラツグミ、キビタキ、ヒヨドリ、ウグイス、
カワラヒワ、サメビタキ、リュウキュウコ
ノハズク、アカゲラ、ヤマガラ、フクロウ、ハ
シボソガラス、キジバト、ヤブサメ、ハシブ
トガラス、アカモズ、ベニマシコ。

その中でも、将来的に日本産繁殖鳥類の固
有種となる可能性のある亜種や個体群を含む
種は、

アカヒゲ(沖縄島の亜種ホントウアカヒゲ/奄
美の亜種アカヒゲ)

カケス(本州以南の亜種カケス/北海道以北の
亜種ミヤマカケス)

トラツグミ(奄美大島の亜種オオトラツグミ/
その他の地域の亜種)

キビタキ(琉球諸島の亜種リュウキュウキ
ビタキ/九州以北の亜種キビタキ)

ヒヨドリ(宮古・沖縄・奄美諸島の亜種アマ

ミヒヨドリと亜種リュウキュウヒヨドリ/
南大東島の亜種ダイトウヒヨドリ/その他
の亜種ヒヨドリ・亜種イシガキヒヨドリ)
カワラヒワ(小笠原の亜種カワラヒワ/その他
の亜種)

リュウキュウコノハズク(繁殖分布域におい
て遺伝的に異なる2グループが存在し、沖
縄本島では、同所的に生息)

ヤマガラ(八重山の亜種オリヤマガラ/その
他の亜種)

フクロウ(北海道以北の亜種エゾフクロウ/
本州以南の亜種フクロウとその他の亜種)
の9種がリストアップされています。括弧内
は国内のグループ分けです。

●大陸と日本の鳥の系統

例えば、カケス。日本のカケス群から南ま
わりで中国南部のタカサゴカケス群、ヨーロ
ッパカケス群、北にまわってユーラシア北部
のミヤマカケス群につながり、これは大陸集
団が日本起源の可能性がある一例とのこと。

亜種ミヤマカケスが大陸から北海道に広く
分布し、本州以南の亜種カケスの分布は比較
的狭いことから、亜種ミヤマカケスから亜種
カケスへ続く流れを今までなんとなく考えて
いたのですが、実はそれが逆らしいのです。



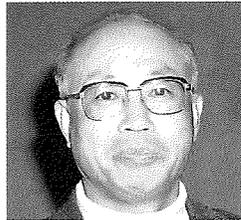
本州でおなじみの亜種カケス

それだけではなく、種内系統樹のタイプ分
けをすると、日本で繁殖する鳥の約半数は大
陸起源ではなく、日本起源かもしれないとい
う話もあります。

古いと言うか、頭がすっかり固くなってい
る鳥見人としては、なかなか理解が追いつか
ない部分が多いのですが、今までの考えがい
ろいろと塗り替えられそうです。

鈴木忠雄顧問 日本野鳥の会創立 80 周年記念功労表彰

2014 年 11 月 8 日 (土)、千葉市内で開催された(公財)日本野鳥の会連携団体全国総会において、当会の鈴木忠雄顧問(熊谷市)をはじめとする全国 53 名の方々に対する創立 80 周年記念功労表彰が発表されました。



支部長当時の
鈴木忠雄顧問

鈴木顧問は、1984 年に当会(当時「日本野鳥の会埼玉県支部」)が大変厳しい状況の中で再発足した時に副支部長に就任され、内科医院の院長という激職にも関わらず、会の牽引役としてご活躍されました。

主に地元の大麻生定例探鳥会に参加され、会員たちの敬愛を集め、1989 年から 1992 年までの 3 年間は支部長として、会員数を 1.8 倍以上に増やすなどの実績をあげました。支部長退任後は顧問として、様々なご指導をいただいています。



総会会場に出席した人への表彰状贈呈

多摩川河口干潟保全のための署名運動に協力

日本野鳥の会神奈川支部は、多摩川河口干潟保全のための署名運動を進めています。日本野鳥の会埼玉は、神奈川支部からの要請を受けて、この署名運動に協力することになりました。

署名活動の趣旨

多摩川河口干潟は、環境省の「日本の重要湿地 500」及び「モニタリングサイト 1000 事業シギ・チドリ類調査地」に指定され、鳥類では環境省基準 14 種 神奈川県基準 37 種の



神奈川支部の多摩川河口ウェットランド構想

レッドデータブック掲載種が記録されている重要な干潟です。国土交通省により策定された多摩川水系整備計画でも「生態系保持空間」に位置づけられ、国際的な鳥類保護組織である BirdLife International が選定した IBA(重要野鳥生息地)には、東京湾奥部として指定されています。

その多摩川河口干潟を横断する羽田連絡道路の計画が、内閣府により検討されています。しかし河口から約 5 km の間にすでに 3 本の道路があり、貴重な干潟の自然環境を破壊してまで連絡道路を作る必要があるのか、大いに疑問です。多摩川河口干潟は生物多様性保全ゾーンとして保全することを求めます。

(以上署名用紙から。詳しくは神奈川支部の公式サイト <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/> をご覧ください。)

署名用紙は当会のサイトからもダウンロードできます。一人でも多くの署名を集め、神奈川支部にお送りください。

戸隠の山と鳥たち

中村 誠志 (川越市)

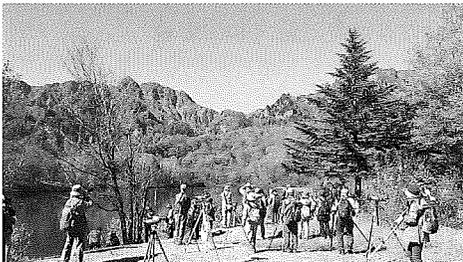
10月25～26日の戸隠高原探鳥会は、両日ともに素晴らしい天気にも恵まれ、戸隠の神域の荘厳な空気を漂わせる森の中、たくさんの野鳥たちと出会うことができました。また、同行の皆さまとも親交を深めることもでき、初参加の私にもとても楽しい充実した探鳥会となりました。

マイクロバスから森の入り口で降りるやいなや、早速マミチャジナイやアカハラ、ゴジュウカラたちが私たちを歓迎してくれました。彼らは、その後も行く先々で私たちの目を楽しませてくれ、お陰で私にもマミチャジナイとアカハラの区別がつくようになりました。

また、ムギマキもよく出て来てくれました。あんなに小さくてかわいらしい色鮮やかな鳥が本当にいるんだなあと感じながら双眼鏡を覗いていました。さらに、この時期はツルマサキの実が餌になってそこに野鳥が集まるということも知り、餌となる木々を観察する必要も学びました。今までの鳴き声だけが頼りの鳥見から一歩前進できたかなと思っています。

私としては、2日目の早朝探鳥会で見た神々しいばかりの戸隠山の姿がなんといっても忘れられません。商店や宿坊が並ぶ参道をちょっと裏に入ると、そこは畑や田んぼが広がる、いかにも里山でした。午前6時、活動を開始した鳥たちの声を楽しみながら歩いていくと、見事な戸隠の山塊が私たちを見下ろしていました。雲一つない真っ青な空をバックに、昇ったばかりの朝陽を浴びて紅く染まったその山容は、まさに息を呑む光景でした。

そのほか、戸隠山とカラマツ林の黄葉を映しこんだ鏡池の神秘的な美しさや夜の食事会



あけまして おめでとうございます



会員の皆様、佳いお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は会員皆様のご協力で、日本野鳥の会埼玉の創設30周年を迎えることができました。その中でIT委員会を発足し、当会のホームページをリニューアルしまして、さらなるPR活動に努めてまいりました。会員増加をめざし、(公財)日本野鳥の会本部と共催の「はじめてみよう! バードウォッチング」も開催しました。

今年も探鳥会を含め、ボランティア活動を活発に展開して行きたいと考えています。どうぞ皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

バードウォッチングを楽しみながら、健康で、安全に、過ごしたいと思います。

皆様方のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

平成 27 年 元旦

日本野鳥の会埼玉 代表 藤掛保司

の楽しい雰囲気など、印象に残っていることはまだまだたくさんあります。皆さまのお陰で豊かな時間を過ごすことができました。

『白サギと少年』を鑑賞

大井智弘(さいたま市)

11月2日(日)のまつぶし緑の丘公園探鳥会で、Fさんから紹介していただいた「みぬま秋フェスinさぎ山」に帰り道に寄り、特別天然記念物「野田サギ山」の白サギ群生地を舞台にした記録映画『白サギと少年』(昭和39年制作)を鑑賞してきました。映画では、当時の野田サギ山の生態はもちろんですが、地元の子もたちとサギとの心暖まる友情、農業問題等たいへん興味深い内容が描かれていました。地道な聞き取り調査や記録等が残っているのなら目を通してみたいとなり、まずは吉村昭著『鷺』から読んでみたいと思っています。



野鳥情報

さいたま市西区の鴨川 ◇10月1日、根切橋～藤橋間の中州でキンクロハジロ♂エクリプス1羽。植水小学校南側の細い水路から工場の廃液らしい真っ黒い水が鴨川に流れ込む出口近くにカルガモ2羽、コガモ1羽。10月6日夕方、関沼付近の護岸の石段の下2段にカワウ、一つ置いて最上段にアオサギが1羽ずつ。表彰台に立っているようで微笑ましかった。他にバン3羽、冬羽のカイツブリ2羽、ゴイサギ幼鳥1羽など。10月12日、植田谷本の学校橋付近でカルガモ17羽、コガモ20羽＋、マガモ♂エクリプス1羽、♀1羽、アオサギ1羽、コサギ4羽、バン1羽など。台風による増水で植田谷堰が潰れたので、上流側は流れが浅くなり、川床が露出して景色が一変した（大塚壮一・純子）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇10月1日午前7時頃、100羽±のヒヨドリが北から南西方向に飛んだ。ヒヨドリの渡りは今季の初認。10月4日午前8時30分、17羽のヒヨドリが北から渡って来た。10月7日午前7時頃、コジュケイの声を久しぶりに聞いた。10月8日午前9時10分、ヒヨドリ50羽±が北から渡って来た。10月14日、台風19号の通過後の吹き返しの風で、10数羽のカラスが風乗りして遊んでいた。10月15日、オオタカの若鳥が5～6羽のカラスに追われて屋敷林に飛び込んだ。ナラ林の奥からアカゲラの声。待っていたら、目の前まで来てくれた。今年にはアカゲラが多い。綺麗な♂のキビタキが地面に降りては枝に舞い上がることを繰り返していた。林床でオオタカの若鳥がキジバトを捕獲。重そうに運んで行った。10月17日、5羽のカケスの群れが屋敷林の上を次々に通過。今年にはカケスが多い。10月20日午後2時、ジョウビタキ♂がプロック塀の上で鳴いていた。今季ここでの初認。10月23日、公園入口の植え込みでジョウビタキ♂が枝移り。20日と同じ個体だろうか。10月29日、このごろ日中はほとんど

鳴かないモズが朝6時45分頃、高鳴きしていた（長嶋宏之）。

さいたま市桜区堤外 N35. 8328 E139. 6171

◇10月2日、アオサギ1羽、ミサゴ1羽、ヒバリ1羽、ツバメ1羽、ノビタキ3羽、ガビチョウ1羽など（長嶋宏之）。

北本市石戸宿北本自然観察公園 ◇10月3日午前10時30分頃、コサメビタキ1羽、キビタキ♀1羽。ブッシュの奥にキジ♂若鳥2羽。先月22日に歩いたときもそうだったが、この秋はヤマガラがやけに多い気がする（榎本秀和）。

坂戸市浅羽 ◇10月7日午前8時45分、浅羽ビオトープ駐車場近く、稲刈り後の田んぼでチュウサギ4羽。隣接する2枚の田んぼに別れて、地面をつつき何かの採餌をしているようだった。10月8日午前6時40分頃も同所で、チュウサギ2羽。他にダイサギ2羽も採餌行動。チュウサギは、坂戸市内での観察は数年ぶり（増尾隆）。

熊谷市奈良新田 ◇10月7日、マガン3羽＝下写真＝。稲刈りの終わった田んぼに座り込み、時々立ち上がって落穂を食べていた。10月10日に飛び去り、10月15日に再飛来。この時は元気にカラスの群れの中に入り、採餌。10月16日以後確認できない。なお、10月11日の午前中に見た人もいる（鶴飼喜雄）。



さいたま市見沼区大和田緑地 ◇10月7日、桜並木にホトトギス赤色型1羽。最初に見た時はヒヨドリ？と思うぐらいの大きさであった。キビタキ♀1羽、オオルリ♀1羽。10月10日、アカゲラ1羽。この秋はアカゲラによく出会う（小林みどり）。

さいたま市見沼区南中野 ◇10月8日、アカゲラ1羽(小林みどり)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月10日、カッコウ若鳥1羽、常緑樹(シイカカシ)にとまり、盛んに虫を食べる。後頭部の白斑がよく見えた。3~4カ所でキビタキの地鳴きを聞いたが、なかなか出てこない。釣り堀にカワセミ1羽(小林みどり)。

熊谷市大麻生野鳥の森 ◇10月11日午前中、あっちからもこっちからもモズの高鳴きが聞こえてくる。グラウンドの縁の小径をたどるとエゾビタキが1羽。エナガの群れに迎えられて森の中を進み、アオゲラ♂1羽、続けてアカゲラ♂1羽。池の上の青空をオオタカ成鳥1羽が旋回する。でかい。きっと♀だな。ショウドウツバメの群れも上空をフライパス(榎本秀和)。

さいたま市緑区 芝川第一調節池 ◇10月11日、ミサゴ2羽。1羽は30cm位のへら鮒を捕り、食事中。オオタカの若鳥がそばで見ている。カンムリカイツブリ1羽、初認。他にヒドリガモ、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロなど(野口 修)。

さいたま市西区昭和 ◇10月11日、乾いた田んぼで冬羽のムナグロ50羽十。稲の切り株やひこばえの間で羽を休めていた(大塚壮一・純子)。

春日部市武里中野 ◇10月13日午前11時30分過ぎ、台風19号接近前の雨がパラつく中、刈田の畔に生えるイヌビエの穂先にノビタキ冬羽の♂1羽を確認した。当地での今季、自己初認。しばらく観察し続けたところ、もう1羽冬羽の♀が出現。時々田んぼに下りては虫のようなものを捕食していた。同日午後4時10分に再訪してみると、♀が雨の中、畔の草にとまっていた。10月15日午後3時45分頃、降雨の最中、♂1羽が同じ所にいた(石川敏男)。

川越市伊佐沼 ◇10月19日午前、セイタカシギ幼鳥1羽、ツルシギ冬羽1羽。大きめのアジサシ類が1羽飛び回り、しきりに水面にダイビングするも、気の毒なくらい餌は捕れていない。アジサシ幼鳥と判断する。識別には『アジア水鳥図鑑』(野鳥の会刊)

のイラストがわかりやすいが、嘴基部や足はもっと明るい色に見えた(榎本秀和・みち子)。

嵐山町花見台調整池 ◇10月23日、珍しくミサゴが獲物を求めて飛来した=下写真=。一度バシッと水しぶきをあげてアタックしたが失敗。そのままに西のほうへ行ってしまった(大川清久)。



加須はなさき公園 ◇10月24日、A1池でヒドリガモ100羽十、カルガモ、ハシビロガモ5羽、オナガガモ♂1羽、コガモ100羽十、マガモ、スズガモ♀2羽、ハジロカイツブリ1羽。他にバン、オオバン、ダイサギ、コサギなど。カモ類の♂の大部分はエクリプスからの換羽途中であった。A2池でクサシギ1羽、ダイサギ2羽(長嶋宏之)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇10月25日、コガモの♂は換羽前の個体が多く、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロは換羽途中の個体が多かった。その他カルガモ、キンクロハジロ、ゴイサギ、ダイサギなど(長嶋宏之)。

久喜市清久町N36.0648 E139.6399 ◇10月25日、ミヤマガラス200羽十が高圧送電線の鉄塔を挟んでほぼ等間隔に止まっていた。ここでの今季初認。やがて高く舞いあがり北東に流れた。コクマルガラスは混じっていなかった(長嶋宏之)。

表紙の写真

シジュウカラとメジロ

まずシジュウカラが交代でしぶきを上げる。その後、メジロがそっと寄ってくる。天候によって水位が変わり、林の中の水浴び場所は移動する。

蟹瀬武男(さいたま市)



行事案内



オオジュリン

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：未就学児無料、会員と小中学生50円、一般100円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月4日(日)

詳細は、12月号をご覧ください。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月10日(土)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場8:12発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、赤坂、赤堀、石塚、大井、新部、野口(修)

見どころ：カイツブリ、カモ、カモメなど水鳥が集まっています。ノスリ、ハヤブサなどの猛禽やベニマシコにも期待ですね。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月11日(日)

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨急バス③番乗り場から松伏町役場行き8:47発で「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、植平、榎本(建)、小林(善)、佐藤、進士、鈴木(誠)、田邊、野村(修)、野村(弘)、森下、吉岡

見どころ：公園は今年3月末に完成することとなりました。公園内の池ではカモやカイ

ツブリが羽を休めています。公園内散策の後、近隣の屋敷林で冬の小鳥を探します。

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：1月11日(日)

集合：午前10時10分、JR総武線船橋駅改札口付近。集合後京成バス10:20発船橋海浜公園行きに乗りし終点で下車。

交通：JR武蔵野線南浦和9:05→西船橋にて総武線に乗り換えて船橋で下車。

担当：佐久間、菱沼(一)、菱沼(洋)、佐野、渡辺
見どころ：ミヤコドリやハマシギ、ミユビシギなどのシギ類、スズガモのほか珍しい海ガモなどを期待。海風が強く冷たいです。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗り。

担当：千島、新井、鶴飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：土手からはアオジ、カシラダカ、ジョウビタキ。そしてオオタカやハヤブサも。野鳥の森ではシロハラ、アカハラ、ルリビタキと出会いたいですね。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月12日(月・祝)

集合：午前9時20分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅北口から立正大

学行きバス9:02発で「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。下車後、歩道橋を渡るのが最短距離です。

費用：参加費以外に入園料410円(子供80円)、65歳以上210円(証明書を持参ください)。

担当：藤掛、大坂、鈴木(秀)、中村(豊)、藤澤、松下

見どころ：南口から、ルリビタキやカモを探しながら、中央口までのコースを歩きます。暖かい多目的ホールで鳥合わせの予定。お弁当を持参して、野鳥談義をしませんか。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月12日(月・祝)

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武スカイツリー線春日部駅西口(三井住友銀行前)朝日バス③番乗り場から、春日部エミナース行き8:41発で「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、吉岡、吉安

見どころ：見通しの良い雑木林や斜面林沿いの道、広々とした田んぼの中の道を回ります。刈田や草地ではカシラダカ、ホオアカなどに期待。青空をバックにノスリも。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：1月17日(土)

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島

見どころ：今季は各地で冬鳥の出足が順調なようです。さて、当日は何が出迎えてくれるのでしょうか。期待が膨らみます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月17日(土)午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(案内人は8

時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、赤堀、浅見(徹)、石塚、楠見、小菅、柴野、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：毎月おなじみの会ですが、年が改まったところで新鮮な気持ちで、鳥たちに新年のご挨拶に行きましょう。お天気が良ければ、はるか彼方の山々も楽しめます。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月18日(日)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36→南栗橋7:52→柳生8:06着。またはJR宇都宮線下り大宮7:03→栗橋7:38着で東武日光線に乗り換え、柳生8:06着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、茂木、山田

見どころ：カモや冬の小鳥たちが勢ぞろい。猛禽も良く見られるでしょう。万全の防寒対策で真冬の遊水地をお楽しみください。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月24日(土)

集合：午前9時15分、久喜菖蒲公園駐車場。

※集合時間が変わりました。

交通：JR宇都宮線白岡駅西口から、朝日バス8:32発菖蒲仲橋行きで、「除堀(よけぼり)」下車、徒歩約15分。バス停からご案内しませぬ。

担当：長嶋、大坂、植平、菊川、佐藤、佐野、竹山、長野

見どころ：換羽を終えたカモ類や冬羽のカンムリカイツブリを楽しみます。アシ原のオオジュリンも間近で観察。昨年は思いもかけない珍鳥が出ました。さて今年は何？

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月25日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：河原では、「目」。じっとしていると石のようなイカルチドリ、カラフルなのに意外と目立たないカワセミ。自然に溶け込む彼らを見つけてください。そして、稲荷山公園では、「耳」。小さな地鳴き、落ち葉をかき分ける音、鳥たちの存在を意識すれば、きっとたくさんのお会いがあるはず。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月25日(日)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。または午前9時、環境学習館前。

担当：玉井、青木、内田(克)、榎本(建)、小林(み)、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、菱沼(洋)、星野、吉安

見どころ：黒浜沼周辺は変化に富んだ環境があり、多様な種類の鳥が見られます。水辺、アシ原、木立に潜む鳥を探します。のんびりと里の鳥を楽しみましょう

ご注意：車の方は、“緑のトラスト保全第11号地黒浜沼駐車場”を利用してください。

長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月25日(日)

集合：午前9時40分、秩父鉄道長瀨駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 8:52→寄居 9:21→長瀨。
解散：正午ころ、上長瀨駅近くの自然の博物館広場。

担当：井上、鶴飼、佐久間、堀口、松下

見どころ：荒川の岩畳を上流へ歩きます。昨年は36種でした。何が出るかお楽しみに。トイレは各所にあります。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：1月29日(木) 平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)東武伊勢崎線羽生駅東口 8:05 発、南羽生駅 8:22 発で、「羽生水郷公園・キャッセ羽生」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：池ではヨシガモをはじめとしたカモたち、アシ原では遠来の小鳥たちが出迎えてくれます。猛禽が飛ばば言うことなし。ご注意：帰りのバスは14:51発です。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：1月31日(土)

集合：午前8時35分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用です。駐車する場合は「蝶の里公園駐車場」にしてください。

交通：東武東上線川越 7:57 発、または寄居 8:04 発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：雑木林でカラの混群、アオジ、シメ。クロジ、キクイタダキ、トラツグミがいたことも。河川敷ではイカルチドリ、クサシギ、タヒバリ。ノスリ、オオタカも。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：1月31日(土)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き 8:50 発バスで終点下車。

担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木(秀)、藤掛、星、水谷、山本

見どころ：毎年収穫の多い自然豊かな公園。アオ(カワセミ、ルリビタキ)、キ(キセキレイ)の確率が高いので、アカ(ウソ、ベニマシコ)を求めて三色達成を!

千葉県・銚子漁港探鳥会(要予約)

期日：1月31日(土)

詳細は、12月号をご覧ください。



行事報告

7月19日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 35名 天気: 曇

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト
カワウ コゲラ ハシブトガラス シジュウカラ
ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ スズメ
ホオジロ (14種) (番外: ガビチョウ) 連日の猛暑
が去ったヤマユリやウバユリの咲く道を歩いた。
この日はチョウが少なく、オオムラサキにはどう
とう出会えなかった。茂った葉の中からヒヨドリ、
メジロ、ウグイスの声が聞こえてくるが、姿はほ
とんど見えない。例年ならガビチョウの声が多い
のだが、今年はウグイスの方が多いように思われ、
何故か嬉しくなった。(中村豊己)

7月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

相原修一、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、
小林みどり、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司

7月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 50名 天気: 晴

キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ
ダイサギ オオタカ カワセミ オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバ
リ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ コム
クドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホ
オジロ (22種) 風が吹いて思ったほどの暑さを感じない。
この時季ならではの幼鳥・若鳥を堪能。
普段はさっと流してしまうムクドリやカラスも親
と子を見比べられた。また、いたるところでホオ
ジロが囀り、オオタカも出現。(青木正俊)

7月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 26名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ササ
ゴイ ヒメアマツバメ トビ ツミ カワセミ
コゲラ アオゲラ オナガ ハシブトガラス シ
ジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクド
リ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カ

ワラヒワ (22種) 定例探鳥会の楽しみ方の一つは、
過去の記録との比較。いつも見られる鳥、めずら
しい鳥、あるいは、初記録。今回に関しては、高
い確率で出現しているアオサギ、ダイサギ、コサ
ギ、ホオジロなどが見られなかった。サギの仲間
はササゴイだけだったが、最近は出現率が高く、
個体数も多くなっている。(長谷部謙二)

8月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 35名 天気: 晴

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト
カワウ ダイサギ ツミ ハシブトガラス シジ
ュウカラ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ
ウグイス メジロ ホオジロ (15種) 出発前に水
の確保をお願いし、日陰に休みながらの探鳥
会。土手の木からメジロの声。対岸の木に谷渡り
するメジロ。コジュケイのチョットコイ、チョッ
トコイの大きな声。また、ピョー、ピョーの声も。
アオゲラ? これもコジュケイの声。鳥のほかにも
トンボとチョウで楽しめた。(吉原俊雄)

8月10日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。(茂木幸蔵)

8月16日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 39名 天気: 曇

カルガモ オナガガモ スズガモ カイツブリ
キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ
ダイゼン メダイチドリ セイタカシギ オオソ
リハシシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハ
シシギ イソシギ キョウジョシギ オバシギ
トウネン ウミネコ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨド
リ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ
カワラヒワ (32種) (番外: ドバト) 午後の開催は
成功。2時頃にオオソリハシシギが飛来。その後、
メダイチドリ、キョウジョシギなどが増えてきた。
嘴を貝にはさまれたカワウがいて心配。アオサの
腐敗臭がした。(杉本秀樹)

8月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、小林みどり、
柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村
禎夫

連絡帳

●「会員を増やすための探鳥会」速報

前月号本欄で紹介した「会員を増やすための探鳥会」として、初心者向けバードウォッチング・イベント「はじめてみよう！バードウォッチング」を、11月16日(日)午前10時～12時、さいたま市見沼自然公園で開催しました。



『しらこぼと』行事案内欄には掲載せず、本部のホームページ、新聞のイベント情報欄、ビラ配布などで参加を呼びかけました。

結果は、参加者 13 名(最年少 2 歳)、その中でお試し入会 1 名、これをきっかけに事前に入会申し込みをして参加した人 1 名、入会したい意向の人 1 名でした。詳しくは、後日報告します。

●自治会依頼の「野鳥観察の集い」

杉戸町 1-2 自治会から「野鳥観察の集い」指導依頼を受けて、11月22日(土)午前9時30分～10時30分、西公民館で室内レクチャー「野鳥ってなに？～身近な鳥たち」(講師：長野)、10時30分～11時30分、杉戸西近隣公園で実地の野鳥観察(リーダー11名)を行いました。

財団から自然保護室の山本裕チーフ、当会

から藤掛代表も出席。参加者は 70 名。多くの方が講義中はメモをとり、野外観察ではたくさんの方の質問をリーダーに投げかけるなど、皆さんの熱心さに感服しました。

●会員数は

12月1日現在 1,788 人。

活動と予定

●10月～11月の活動

10月4日(土)～11月14日(金)「第2回みぬま秋フェス in さぎ山」で、入会案内、『しらこぼと』など配布(藤掛保司)。

11月8日(土)『しらこぼと』12月号校正(相原修一、浅見徹、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

同日 千葉市で開催された日本野鳥の会連携団体全国総会に出席(海老原美夫)。

11月16日(日)役員会(司会：菱沼洋子、多摩川河口署名運動・その他)。

11月17日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』12月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●1月の予定

1月5日(月) 編集部会。

1月10日(土) 普及部・研究部会。

同日 2月号校正(午後4時から)。

1月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

1月18日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

今月は、例年に比べて探鳥会が多い！ 3 ページに納めるために、「見どころ」を中心にバッサバッサとカット。一生懸命文案を練ってくださったメインリーダーの皆さま、ゴメンナサイ。(浅見)

しらこぼと 2015 年1月号(第 369 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4
 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断
 転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社